

開館35周年記念 特設展

文学は おいしい



おいしいシーン
あつめました



2024年(令和6年)7月13日(土)～8月25日(日)

【休館日】 月曜日(7月15日、8月12日は除く)、7月16日(火)

【開館時間】 展示室 9:00～17:00(入室は16:30まで) / 閲覧室 9:00～19:00(土・日・祝日は18:00まで)

【観覧料】 常設展チケットでご覧いただけます 一般 330円(260円) 大学生 220円(170円)

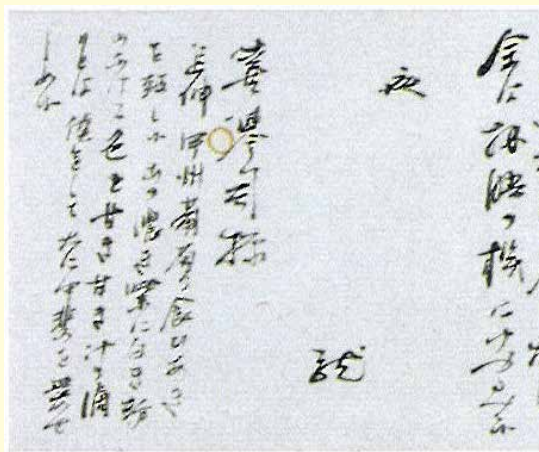
※()内は20名以上の団体料金・県内宿泊者割引料金です。

※高校生以下の児童・生徒、65歳以上の方、障害者手帳をご持参の方、およびその介護をされる方は無料です。

山梨県立文学館 開館35周年記念特設展 文学はおいしい

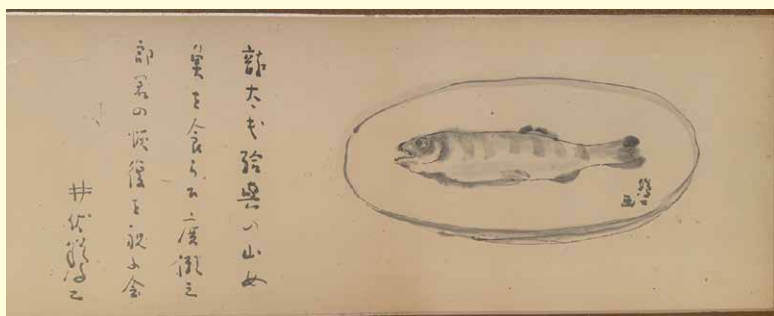


田中冬二「富士ビューホテルにて」書(寄託資料)
河口湖畔に建つ富士ビューホテルでの詩。1941年発表、詩集『葡萄の女』(1966年昭森社)所収。

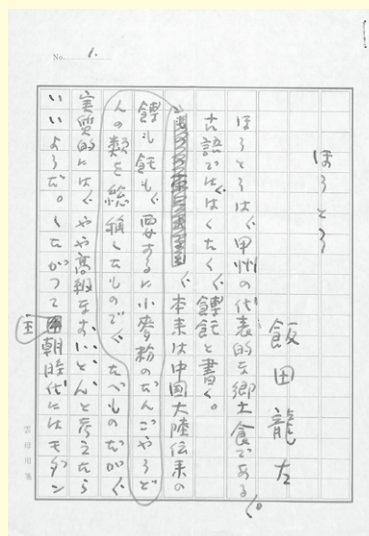


芥川龍之介 山本喜誉司宛書簡(末尾部分)
1910(明治43)年10月14日(推定) 個人蔵
第一高等学校1年の秋、山梨で行われた行軍演習を終えた後の手紙、山本は府立第三中学時代の友人。追伸に「甲州葡萄の食ひあきを致し候」と記し色と味を賞賛する言葉を残している。

芥川龍之介が夢中になった甲州葡萄、スープレに映った富士山を詩にした田中冬二、飯田龍太が贈った甲州の山女魚を絵にしてお礼のあいさつに代えた井伏鱒二……。文学作品や作家たちのエピソードには、印象的な食の場面が登場します。作家の食へのこだわりをさぐると、好き嫌いがあつたり思い出の食べ物があつたり……。料理が得意で料理本を手がけた作家も多いのです。文学のなかのいいシーンを紹介します。



幸富講寄せ書き 1969(昭和44)年7月6日付(寄託資料)
井伏鱒二の書の部分。飯田龍太が山梨県の柎代川で釣って送った山女魚の煮浸しを、東京の幸富講の仲間たちで賞味し、龍太へ送った寄せ書き。



飯田龍太「ほうとう」原稿
山梨の郷土食「ほうとう」についての一文。

関連イベント

消しごむはんこづくりワークショップ

7月28日(日)

午前の部10:00~11:30 午後の部14:00~15:30

- 講師 アオヤギルミ(消しごむはんこ作家)
- 会場 研修室
- 定員 30名(午前・午後 各15名 小学校4年生以上)
- 材料費 500円
- 申し込み方法 ●月●日(土)より電話でお申し込みください。定員になり次第、締め切ります。

年間文学講座3

「作家が描いた甲州の“食、あれこれ”

8月12日(月・振休)

14:00~15:10

- 講師 高室有子(当館学芸幹)
- 会場 研修室
- 定員 60名
- 申し込み方法 電話でお申し込みください。定員になり次第締め切ります。

定員になり次第申込を締め切ります。

いずれも
参加無料

閲覧室資料紹介

「たべもの百景」

文学作品の中の、食べ物に関わる図書や関連資料を紹介します。資料は手に取ってご覧いただけます。

- 会期 7月12日(金)~8月25日(日)
- 会場 1階 閲覧室 *入場無料

交通のご案内

JR中央本線甲府駅より

- 甲府駅バスターミナル(南口)1番乗り場より御勅使・竜王経由敷島営業所・大草経由韮崎駅・貢川団地各往きのバスで約15分「山梨県立美術館」下車。
※甲府駅からのバスの時刻表は<山梨交通HP>よりお調べいただけます。
- タクシーで約15分。

中央自動車道

甲府昭和インターチェンジより

- 料金所を昇仙峡・湯村方面へ出て、200m先を左折、西条北交差点を左折、アルプス通りを約2km直進、貢川(くがわ)交番前交差点を左折、国道52号を約1km左側。



そのことばのつづきへ
山梨県立文学館
Yamanashi Prefectural Museum of Literature

〒400-0065 山梨県甲府市貢川1-5-35
TEL:055-235-8080 FAX:055-226-9032
<https://www.bungakukan.pref.yamanashi.jp/>



公式 SNS

